

# 四国健康ナビ

「心臓血管外科手術」と聞くと「出血の多い大掛かりな手術」、「術後しばらく入院や自宅安静が必要」、「体力がない人や高齢者は受けられない」、というようなイメージ

徳島大学病院心臓血管外科 秦広樹教授



## 「身体に優しい」手術が普及

「優しい」手術が普及しつつあります。一般的な心臓・大血管手術

固まるまで2、3カ月間は激しい運動や力仕事を避けていただく必要があるなどの課題があります。近年はこれらの課題が、手術侵襲(体への負担)を減らしている。肋間小開胸手術が広まっています。これは肋骨と肋骨の間を6〜8センチ程度切開したすき間から心臓に到達する手法で、骨を切らないため出血・疼痛や運動制限が減ります。当院でもこれらの「身体に優しい」手術に積極的に取り組んでいます。患者さんごとの病状や全身状態によって選べる手術法は異なりますので、心臓・大動脈疾患でお悩みの方はまず専門医にご相談ください。

「心臓血管外科手術」と聞くと「出血の多い大掛かりな手術」、「術後しばらく入院や自宅安静が必要」、「体力がない人や高齢者は受けられない」、というようなイメージ。は、胸骨正中切開(胸の真ん中を20センチほど切開し、細長い胸骨の中央を切断して心臓に到達)にて行いますが、胸骨を切ることによる出血や疼痛の問題に加え、術後に胸骨が癒合不全(癒合不全)になり、患者さんの社会復帰が非常に早くなる「身体に優しい」手術で弁膜症手術や冠動脈バイパス術に適用されます。大動脈弁狭窄症に対する弁置換術では、肋間小開胸でこれまで手術を躊躇されていたような高齢者や合併症を